

令和5年度 学力向上プラン（留意点入）

学校名 中央区立月島第一小学校

学校の教育目標

- ・進んで学び深く考え、行動する子ども
- ・思いやりをもち、助け合う子ども
- ・健康で、ねばり強い子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・子どもにとって魅力ある授業や達成感・充実感のある授業の実施
- ・指導法の工夫による「学ぶ意欲の高揚」と「学習習慣の確立」
- ・学習規律と基本的生活習慣の定着

令和5年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	「令和5年度サポートテスト」における書く力において、参加校平均点を、4年生では7.9ポイント、5年生では8.4ポイント、6年生では1.2ポイント下回っている。読解では、4年生では7.3ポイント、5年生では4.6ポイント下回っている。	・意図に合った文章を書くための内容を捉えることができていない。 ・基本的な文章の書き方の習熟が不十分である。
算 数	「令和5年度サポートテスト」における図形学習において、参加校平均点を、4年生では7.9ポイント、5年生では7.8ポイント下回っている。記述においては、4年生では6.1ポイント、5年生では5.1ポイント下回っている。	・図形の習熟が不十分である。 ・図や言葉で考えを表現したり他の児童に説明したりするなどの機会が少ないことが考えられる。 ・実際の生活や経験と結び付けて考えていく場が少ないことが考えられる。
社 会	「令和5年度サポートテスト」における社会的事象における理解については、参加校平均点を、4年生では7.5ポイント、5年生では3.8ポイント下回っている。資料の読み取り等考える力において、4年生では7.7ポイント、5年生では1.9ポイント、6年生では1.2ポイント下回っている。	・社会事象を関連付けてまとめる活動が十分にできていない。 ・様々な資料を読み取り、分かったことについて考察し表現する活動が十分にできていない。
理 科	「令和5年度サポートテスト」における結果を整理し論理的にまとめることにおいては、参加校平均点を、4年生では5.2ポイント、5年生では6.1ポイント下回っている。学習内容の理解については、4年生では0.6ポイント、5年生では7.2ポイント下回っている。	・課題に対してのまとめを意識してすることが十分にできていない。 ・課題に対する結論を確実に押さえて習熟させることが不十分である。
英 語	「令和5年度サポートテスト」における単語の読むことでは、参加校平均点を5.8ポイント下回っている。日常会話を聞いて、その目的や場面・状況などを理解することが苦手である。	・単語一つ一つの意味を確認する時間が十分に取れていない。 ・繰り返し聞き取りをする時間が十分とれていない。

体 育	「東京都統一体力テスト」の結果における握力の数値が、ほとんどの学年で1～2ポイント下回っていた。また、立ち幅跳びの値が区の平均を下回っている学年が複数あった。	・普段の生活や遊びの中での運動経験の差が体力調査の結果の差につながっている。また、日常生活で強く握る、ぶらさがる、重たいものを持つといった経験も減っていることが考えられる。
-----	---	--

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	文章を書く力において、「令和6年度学習力サポートテスト」のすべての実施学年で、それぞれ目標値を達成するようにする。
	算数	図形領域において「令和6年度学習力サポートテスト」のすべての実施学年で、それぞれ目標値を達成するようにする。
	社会	社会的事象における理解において、「令和6年度学習力サポートテスト」のすべての実施学年で、それぞれ目標値を達成するようにする。
	理科	結果を整理、論理的にまとめるにおいては、「令和6年度学習力サポートテスト」のすべての実施学年で、それぞれ目標値を達成するようにする。
	英語	単語の読むことで、「令和6年度学習力サポートテスト」で、それぞれ目標値を達成するようにする。
	体育	「東京都統一体力テスト」において、握力・立ち幅跳びの値で、すべての学年が区の平均を超えられるようにする。
②授業改善		学校評価の児童アンケートにおける「授業がよく分かる」において、93パーセントを上回るようにする。
② 家庭との連携		学校評価の保護者アンケートにおける「学習習慣を身に付き、自らすすんで課題に取り組んでいる」において、80パーセントを上回るようにする。
④体力向上		体を動かすことが好きになり、休み時間に積極的に外遊びで体を動かしたり、体育に主体的に取り組んだりする児童が9割超えるようにする。また、安全に取り組むための知識・技能を9割以上の児童に身に付けるようにする。

【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	単元の最後のまとめやその時間の振り返りを、その都度書いていく。また、文章を書くときは、書く目的や構成を意識させる。水曜日の朝や空いている時間で読書をする時間を設定し、本を読むことを習慣付け、文章を読むことに抵抗をなくすとともに、文章力を高めるようにする。

算数	自分の考えを表現する時間を確保し、図・式・言葉など多様な表現方法で表現できるようにしていく。図形領域の学習では、繰り返し練習問題を解いていく。
社会	3年生以上では、単元の最後に、社会的事象を多角的に捉え、関連付けたまとめを書く活動を入れる。統計グラフや年表などの資料から内容を読み取り、気付いたことや自分の考えをまとめる活動を行っていく。
理科	3年生以上で、実験・観察後の結果を整理した後、自分で考えてまとめる活動をする。視聴覚教材を活用して学習事項を確実に押さえていく。
英語	5，6年生で、単語の意味理解を十分にさせるために、反復して学習する時間を毎時間5～10分確保する。
体育	縄跳び、持久走、ボルダリング、相撲といった持久力を高めるためのマイスクールスポーツを充実させ、体力テストで区の平均を下回っていた、握力や立ち幅跳びの記録の向上を目指していく。

②授業改善

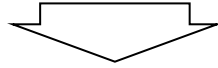
取組Ⅰ	学習指導要領や解説、教科書、以前の実践を参考に、児童の実態に合った授業プランを構成し、児童が意欲的に取り組める授業にする。また、デジタル教材を活用し、視覚的な情報を多く取り入れた授業作りをすることで、支援を要する児童にも分かりやすい環境を作る。
取組Ⅱ	授業後に授業の構成を見直し、児童の授業中の反応、提出物、テスト等の結果分析を行い、児童に「何が身に付いたか」を振り返る。必要に応じて、習熟する時間を多く取るようにする。補習（スタディ月一）を活用し、習熟に時間の必要な児童が基礎基本を身に付けられるように指導する。

③家庭との連携

取組Ⅰ	tetoru や連絡帳を活用し、学習用具の準備や学習の予定について児童や保護者が課題を確認できるようにすることで、進んで課題に取り組む姿勢を整える。
取組Ⅱ	「家庭学習の手引き」を配布し、自学・自習の内容を充実させる。宿題の提出率を9割以上にし、家庭学習の習慣を身に付ける。低学年では宿題の丸付けを保護者に依頼し、学習のつまづきを学校と家庭で共有する。

④体力向上

取組Ⅰ	発達段階に合わせた運動や運動遊びを通して、自己の課題をもたせ、友達と関わりながら、体の動きを高められるようにする。外体育の授業の際には、時間走を行う。
取組Ⅱ	縄跳びカードを活用し、縄跳びに意欲的に取り組ませることで、持久力の向上、グリップを握る際の握力の向上、ジャンプすることでの跳躍力の向上を目指していく。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	文章を書くときは組み立てメモや思考ツールなどを使い、どのような構成、内容にするかを考えて書くようにさせた。また、学習のまとめを自分の言葉で書くことで、文章でまとめる力が向上し、学習したことを振り返ったり内容を深めたりすることができた。	書く時間の保障や書くことへの意欲付け、個別に合わせた指導をしながら、さらに書く力を付けていくようにする。
	算数	答えを出すだけでなく、自分の考えを書く時間を必ず取り、表現できるようにした。図などに表すことで演算決定ができるようになった。また、多様な方法を知ることによってさらに表現力を高めることができた。	どの領域でも基本的な事項が身に付くように、個別に指導したり繰り返し問題を解いたりするようにこれからも取り組んでいく。
	社会	資料を読み取らせたり、社会的現象と関連付けて考えさせたりした。単元末には知識を再構成できるような学習課題を設定し、理解を深めていくようにした。	自ら目的意識をもって取り組めるように工夫する。自分の生活との関わりから考えを広げさせていく。
	理科	課題から予想を立てさせることで関心をもって実験や観察ができるようにした。結果を確認した後には必ず考察をさせてからまとめをすることで、理解を深めるようにした。「問い→予想→実験→結果→考察→まとめ」の流れで行った。	実験・観察等は意欲的に取り組むが、基礎的・基本的事項が身に付いていないことがある。いろいろな問題を解いたり、繰り返し内容を確認したりしていく。
	英語	チャンツや歌などで反復して学習した。調べ学習で自分の表現したい文章を考えることで、単語の意味について興味をもった。	書くことに課題がある。英語を「書く・聞く」については継続して学習していく。
	体育	体育の時間などには、意欲的に運動にチャレンジする児童が多く、体力向上を図ることができた。持久走、縄跳びなどのマイスクールスポーツにすすんで取り組む児童が多く、技能の向上につながった。	運動が時期で偏ってしまった。1年間継続して取り組んでいくようにする。また、ボルダリングへの取組を計画的に実施する。

		た。	
② 授業改善	児童の実態に合った授業を計画し意欲的に取り組めるようにした。また、デジタル教材の活用で身近に扱えない教材も学習することができ学力向上に寄与した。	提出物、テスト等から分析した結果をもっと指導に役立てていく。また、個別指導をする時間や内容を充実させていく。	
③ 家庭との連携	Tetoru や連絡帳を活用し、学習用具の準備や学習の予定について確認できるようにした。	学校からの連絡を把握しきれていない家庭もある。児童からも伝えるなどの工夫をし、家庭との連携力を高めていく。	
④ 体力向上	自己の課題をもたせ、友達と関わりながら、体の動きを高められるようにした。	学年が上がるにつれ、意欲のもち方に差が見られ、全体での声掛けに配慮することがあった。休み時間の外遊びなども含めて、すすんで運動できるようにしていく。	